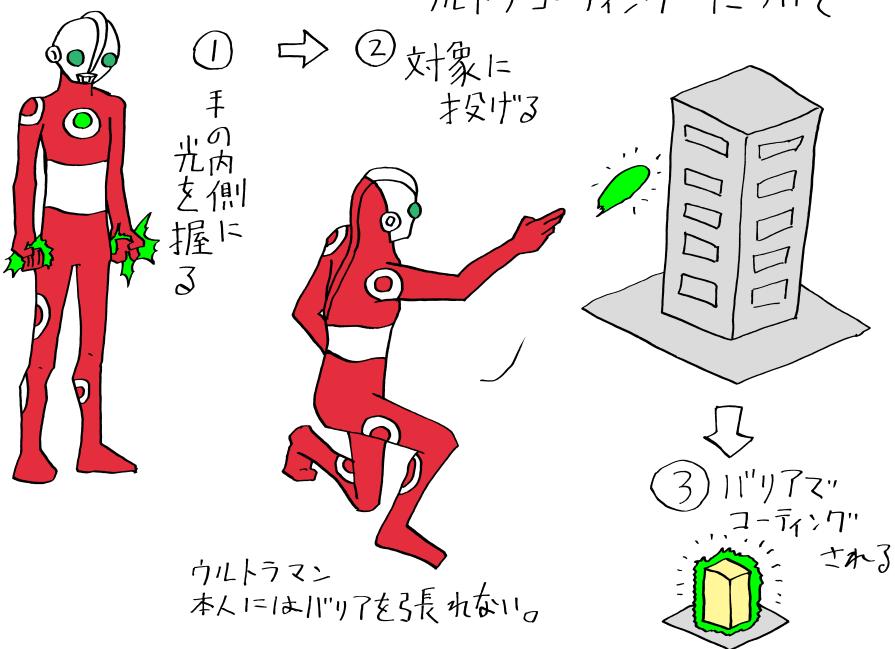
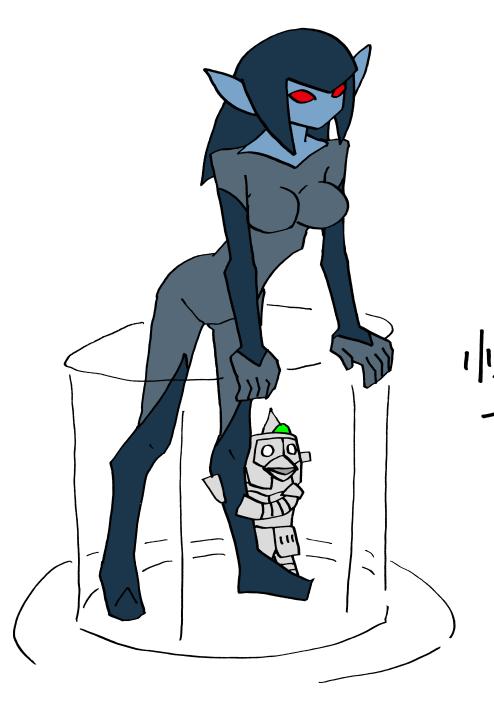


少殺技リーニング ファラス マラス マラス マラス マラス マラス エネルキー スパー りを 両手の 間に 発生せる



#### ウルトラコーティング" 1ニフロス







怪獣弁護士プレド星人

カプセルルを営むウィンスム

# ウルトラマンアラズ

2016年8月27日 第一話脚本

作者名: いしいたける

## 「ウルトラマンアラズ」 ·登場人物表

ナカヨシ  $\begin{pmatrix} 3 \\ 5 \end{pmatrix}$ 男性。会社員。オタクでプログラマ

ウルトラマンアラズ M78星雲光の国出身。

カプセル怪獣ウィンマム 成人男性の膝丈くらいの身長。ウルトラマンアラズが使役するカプセル怪獣。

エリカ/怪獣弁護士  $\begin{pmatrix} 2 \\ 8 \end{pmatrix}$ 人間の女性の姿に擬態している。怪獣弁護士を名乗るプレド星人。

(5 6) 地球防衛軍日本本部長官。

トシヒト

ミライ (14) クローン人間。女性。地球防衛軍超兵器計画テストパイロ ット。

タイパー (28) 男性。 地球防衛軍の優秀なパイロ ット。

貼り 会社帰り を持ったまま。 スマ ホを取り出 非営利法人怪獣保護連盟 紙を見る。 りのナカヨシ。 「怪獣が目撃されています 写真を撮る。 最寄り駅の改札を出たところ (連絡先) 以後、 しばらく手にスマ 見かけたら通報 ホ

ハ々のざわめき「怪獣だ!」「逃がすな!」「そっち行った

の人々が、バットやバール、ハンマーといった武器を持っナカヨシが野次馬的に見に行くと、常軌を逸したテンショ

「殺せ!」

小さな生き物(ミニカプセル怪獣ウィンマム)を囲んでいる。

あと戻ってくる。

ナカヨシ、

度は帰りかけるが、

難しい顔でしばらく歩い

羊やいっ焦れて生多と見子り合うる。
い女性が映るが、女性はナカヨシの動きを見て行動を中止し、この時、一瞬遅れてほぼ同時に同じ行動を取ろうとしたらしナカヨシ、深呼吸し、群衆とウィンマムとの間に割って入る。

群衆から離れて推移を見守り始める。

ナ

カヨシ  $\begin{pmatrix} 3 \\ 5 \end{pmatrix}$ ナカヨシ、 い。どうでしょうここはひとつ、 「皆さん、 侵略者の尖兵かもしれないし、 たいへん感動しました。 盛り上がってますね。 こいつを私に預けていただけません 皆さんの平和を思う心意気、 インファント島の妖精かもしれな 確かにこの 生き物、 かにも怪し

群衆 「何だお前は 「危険な怪獣はすぐ始末するべきだ!」

ナカヨシ 届け出ますから、 「私が責任持ってこい みなさん見たいアニメとかあるでしょう。 ここは解散しようじゃありませんか。 つをしかるべき機関に調査してもらえるように 今日の金曜ロ こんな時間で ドシ

ョーはラピュタだからバルスTLに備えて…」

「わかったぞ! こいつが侵略者の宇宙人だ!」

「侵略者め

正体

群衆 らやってきた…」 「吐いたぞ!」 「平和を守れ!」 カヨシ。 手に持った獲物でナカヨシに襲いかかる群衆。 「宇宙人だ!」 「侵略者だ!」 「地球は渡さねえ!」

血まみれになって地面に伏すナ ·カヨシ。 そばには同じくぐっ

惨殺されるナ

たりと倒れたウィンマム。

「はあ はあ ざまあみろ 侵略者め…」

群衆

ナカヨシとウィンマムの死体を路地裏に引きずってい

めの正当な戦

いだ。

「血が赤いぜ…」

「知るか。

本人がそう認めたんだ。

平和のた

「お

V

こいつ本当に

散る群衆。

#### 路地裏 夜 外

そのとき、 部始終を見ていた様子の女性。 ウィ マムが目を覚まし、 ナカヨシに近づこうとする。 起き上がる。 死んだふ

りだったのだ。

女性は再度隠れ、 事態の推移を見守る。

しくしくと泣くウィンマム。

ウィンマムの額の発光部からナカヨシに対してビー A (リラ

イブ光線) が照射される。 ウィンマムがエネルギ をナカヨ

シに注入しているのだ。

ナカヨシが手に握りしめ て いるスマ ホ  $\mathcal{O}$ 画面が点灯

バッテリー の残量が3%だったのが2秒ほど

で1 0 0%まで上昇する。

ナカヨシは生き返らない。 マムの胸部についたカプセルが開き、 ウィ マムは泣き続ける。 光が漏れる。

ウル

トラマンのビジョンが現れ、

ナカヨシに語りかける。

ナカヨシ

「宇宙人。

そ、

うですね。

そう、

何を隠そうこの私こそM78星雲か

ウルトラマン 私と波長の合う人間を探していたのだが、 は満足に活動できない。 しまった。 「地球人よ… M78星雲から来た者。 すまない… そこでこのカプセル怪獣ウィンマムを使い、 地球人の 私のせいで君を死なせてしまった… 肉体に間借りしなくては地球上で 不幸な形で君を巻き込んで

た者達の守護者になろうではないか…」 さいわい、 感謝する。 君と私とは精神の波長が合う。 私の命を共有しよう。 ウィンマムをかばってくれ 願わくば共に… 虐げられ

見守っていた女性が近づく。マン…」とつぶやくが、気絶したまま。 ・ ウル… トラ… 光りに包まれるナカヨシ。息を吹き返す。「ウル… トラ…

# |獣保護組織の医務室 午前 内

目を覚ますナカヨシ。

そばにはウィンマムがい て、 ナカョシが目を覚まして喜ぶ。

ナカヨシ

「きみ、

こんなところにいて大丈夫なの

か。

また見つかるぞ。

工

リカ

 $\begin{pmatrix} 2 \\ 8 \end{pmatrix}$ 

ナカヨシ、すぐそばに座っている女性に気づく。

「こんなところ呼ばわりされたここはどこでしょう。」

ナカヨシ 「インファント島かもしれない。」

IJ 力 「ここはインファント島。嘘よ。ここは非営利法 人怪獣保護連盟新百

工

合ヶ丘支部の医務室。私は誰でしょう。」

ナ カヨ シ 「宇宙人に魂を売った科学者の娘。 名前はマフネ…」

たがその怪獣をかばう一部始終を目撃し、 興味を持った。

カヨシ (ベッドに登ってきたウィンマ ムを抱きながら)あれはひどい目に

ナ

エリカ

「カツラ。

そうじゃ

ない。

私は怪獣保護連盟の活動員。

エリ

力。

あな

「あなたはあの時比喩ではなく死んでいる会ったね。実際死ぬかと思った。」

る。

エ

リカ

ナカヨシ 「すると、 ウルトラマンに救われたのは脳の損傷がもたらした幻想で

はなく真実だったのかな。」

エリカ 「脳の損傷に ついては調べてみなくては判らない。 けど、 の時起き

た不思議な現象、 B は りウルトラマンが関係しているの?」

ナカヨシ なものか、 「きっと変身アイテムを手に握らされていたと思うのだが。 カードデッキか何か。 見なかったかい?」 ス マホ的

エリカのスマホのアラーム音が鳴る。スマホを確認するエリ

「怪獣が出現したそうよ。あなた、興味があるのでは?」

工

リカ

ナカヨシがすでにいない。部屋の入口のドアが開いている。

## 道路 午前 外

ナカヨシが走っている。ウィンマムが衣服の裾につかまって

いる。

目が発光している。肉体の操作権をウルトラマンが握っ

て

い

る。

ナカョシ、光りに包まれる。

ナカヨシの一人称視点。カメラの高さがぐんぐん上が

0

て

く。

60メートル付近で一度横を見る。ビルディングなど60

-トルの身長がイメージしやすい人工物が視界に入る。

さらに空を見上げ、カメラの位置が上がっていく。離陸した

のだ。

カメラが切り替わり空を飛ぶウルトラマンが映る。

飛んで行く。

# 郊外 里山部と市街地との境界近く 午前 外

空から青く冷たく光る球体が飛んで来る。

着地すると、怪獣の姿になる。冷凍星獣。

そして、市街へ向けて歩き出す。周囲を見回し、悲しそうな叫びを上げ、しばらく佇む。

そこに、 市街の前に立ちはだかるようにウルトラマンが着地

睨み合うというより、 見つめ合うようにしばらくお互い

両者ともファ イティングポ ーズは取らない。

冷凍星獣の心境:あなたには恨みはない が邪魔をするなら

固とした対応をしなくてはならない。 できればそれは避けた

ウル なら断固とした対応をしなくてはならない。 ンの心境: 君に恨みはないがむやみな殺生をする できればそれは

避けたい。

飛行機が飛んできて、 周囲を巡回し始める。 地球防衛軍の主

力戦闘機ビー トルパワー

#### 地球防衛軍日本本部司令室 午前 9 時半 内

地球防衛軍長官トシヒトが モニタを見てい

側近のテストパイ ・ロット ・ミライが側に控えている。

地球防衛軍オペレー 「怪獣に続き、 ウルトラマンら

これまで確認されたことのない個体です。

巨人出現。

情報はリアルタイムで報告せよ。

5 6

「ビー

トル

パワードはカメラドロ

ーンを展開後、

周囲の警戒を継続

監視衛星を現場上空に移動。

移動完了予定時刻を報告せよ。

トは発進準備を整えたまま待機

周囲の住民の避難誘導を開始せよ。

ミライ。

 $\widehat{\stackrel{1}{4}}$ 「はつ。

「君も出られるようにしておけ。 最大限の戦力の投入が必要になるか

もしれない。

(整備スタッフとつながったモニタに向かって) 地球上戦闘用装備に

は換装済みだなっ

有人オペレーション。乗組員、ミライ。」

ミライ「かしこまりました。」

トシヒト 「もちろん、 実戦データを取りたいということもあるが、 出番がある

としたら第一の目標は出現怪獣の抹殺である。 地球の平和を守る重い

役目だ。最善を尽くして欲しい。」

ミライ 「光栄です。 これまでと同様、 全力を尽くします。

長官。 あの巨人はやはりウルトラマンなのでしょうか。

シヒト 「現状では判断しかねるがその可能性は高いと見ていいだろう。

ウルトラマンであるなら人類の味方だ。 我々の役目は援護、 もしくは

彼の邪魔をしないことになるかもしれない。

「ウルトラマンをこの目で見られるなんて、感激です。

ミライ

もしウルトラ 7 ンがピンチになるようなことがあれば、 ぜひ出撃させ

てください。

ウルトラマンとともに戦いたいのです。

シヒト 「対応は臨機応変に行う。 共闘の可能性もありえるだろう。

準備に掛かれ。

「はっ。」

ミライ

# 郊外 冷凍星獣とウルトラマンとのシーン再び 午前 外

ビートルの他に多数のドローンが周囲を飛んでいる。

冷凍星獣が市街に向けて歩き出す。

ウルトラマンは冷凍星獣に向き合ったまま後ずさりでともに

移動する。

市街のすぐ近くまで来た時、ウルトラマンは冷凍星獣がこれ

以上進まないようにおさえる。

市街の一番外側の建物は市立病院。

冷凍星獣とウルトラマンとで押し合いへし合い。

冷凍星獣が手やくちばしでウルトラマンを攻撃する。ウルト

ラマンは防御したりして耐える。反撃はしない。

ーズ。

するかのようなソフトな印象。特の型。相対する相手の恐怖を取り除き怒りを和らげようとウルトラマンのファイティングポーズは釈迦如来のような独

冷凍星獣が口から冷凍ビームを吐く。クロスさせた両腕で受

いるウルトラマン。先腕が凍りつく。

す。 ジルトラマンはエネルギーを腕に集中させ、発熱し、氷を溶

つ。 冷凍星獣、今度は溜めを作って、大出力ビームを横薙ぎに放

自らの体で病院をかばう。まま素早く「一握りの光」的なものを投げてよこす。そしてウルトラマン、背にかばっていた建物それぞれに背を向けた

ルトラコーティング」による表面バリアである。光に包まれる建物群。これはこのウルトラマンの得意技「ウ

に当たった分はウルトラマンの体の一部を凍らせる。当たった分は上空に跳ね返されて飛んで行く。ウルトラマン横薙ぎに発射されたビームは、建物のバリアコーティングに

跳ね返された光線の描写。空中のドローンを次々に凍りつか

世落下させていく。

ウルトラマンによるコーティングバリアの光が届き、光線かさらに冷凍光線がビートルに直撃!と思わせて、一瞬素早く

トルを守る。

を溶かし、立ち上がる。ウルトラマンは膝をつく。気合を入れて再度自分の凍結部分

雄叫びを上げる冷凍星獣。

更に大出力のビームを放つべく、力の溜めに入る。

ウルトラマン、冷凍星銃に組み付き、市街と反対側へ投げ飛

冷凍星獣は仰

向けになる。

上空に放たれる冷凍光線

地面で暴れる冷凍星獣

ルトラ

冷凍星獣、 ウルトラマンをはねのけて起き上がる。

トラマンが後ろか

ら組み付く。

冷凍星獣は暴れてウルト

ラマ ンを跳ね飛ばす。

冷凍星獣が病院を殴り 0 け Ź, コ テ 1 グが病院を守るが

徐々 に薄くなっていく。

トラマ ン、後ろから 冷凍星獣に再度組み付き、 建物の

方 へ再び投げ飛ばす。

起き上がり、 怒り狂った様子の冷凍星獣

ウル トラマ しばらく直立不動で冷凍星獣を見つめる。

冷凍星獣が突進し始める。

ニングプラズ

それと同時に、 ウルトラマ ンはバ

マ

(ウルト

ラマ

の必殺技)

のチャ

両手の り間でスパ クが発生し、 光弾を発射するモー シ 彐

入る。

すると、 がウル ように立ちはだかる。 トラマンと冷凍星獣との 人乗りサイズ  $\mathcal{O}$ 円盤の上に乗った人間大の異星 間に飛び出し、 怪獣をかばう

ーニングプラズマ発射の

モ ションをとっさに解くウル

ラマ

怪獣も急ブレ キで止まる。

(テレパシーを併用してい

るからセリフがよく聞こえる)

怪獣弁護士

私はプレド星人。 人呼んで怪獣弁護士

どうだ。 ウルトラマンよ。 この怪獣を殺す前に、 彼の言い分を聞いてあげたら

いや、 つつ、 君はそれを知りたが 人間を守るために殺戮の引き金を引かねばならないと悲壮な決 0 てい る。 君は怪獣を殺したくないと感じ

断をしたのではない

その葛藤に、

私は興味を抱い

. ている。

冷凍惑星 回想シ

怪獣弁護士

(冷凍星の映像) この怪獣は故郷の星で両親とともに平和に暮ら

ていた。

だがある日、 宇宙から殺戮機械がやって来て、 両親が殺されてしまう。

この殺戮機械こそ、 球防衛軍が開発中の星間自動巡回平和維持マ

超兵器だ。 宇宙での 自動運転及び平和維持活動実験の最中、

口 グラムのバグにより暴走し、 現地の生物を殺戮

殺戮機械 の兵器と彼 0 故郷 の惑星の磁力とが合わさり特殊な電磁波が

発生し、 彼の体は変異 し強大化、 星間飛行能力を得る。

そう。 彼を化物にしたのは地球人。 そして、 彼が地球に来た理由は愛

する両親を奪った地球人への復讐なのだ。

### 地球防衛軍日本本部司令室 昼 内

オペ た。方角は北東方面。 ルトラマンらしき巨人、 ともに飛行にて移動を開始しまし

「予測される目的地を算出せよ。

進路方向直線上にある重要施設

0

シヒ

地球防衛軍日本本部基地。

ストで構わない

オペ

「進路予測出ました。

オペレー -ションル  $\Delta$ のメ インモニタ . О 映像がジャ ックされ、 怪獣

弁護士が映る。 ウ 1 マムを抱きかかえている。

本本部長官・ 「(小型円盤の室内= シヒトに告ぐ。 一人用の 我々はあなたと交渉した カプセル的な狭い空間) \ \ \ 地球防衛軍 応答せ  $\exists$ 

怪獣弁護士

トシヒト 「オペレ タ この放送の主と交信できる回線は存在するか。

なので、

私がテレパシーで読み取ったこの怪獣の事情を教えてあげよ

怪獣弁護士 て構わない。 「テレ レパシー でオンラインになっている。 そのまま口頭で話してくれ

-シヒト 「君は何者だ。」

怪獣弁護士「私は怪獣弁護士。」

トシヒト 「君の言う『我々』の示す範囲を説明せよ。

怪獣弁護士 とは私 の他に、 現在行動をともにしている (カメラが左右にパ

ラマンと怪獣を指す。」

小窓の外に見えるウ

ĺ

トラマンと冷凍星獣人を映す)

ウルト

トシヒト 「交渉といったがそちらの要求はなんだ。

怪獣弁護士 である。 「この怪獣は君たちが先日自律型兵器の実験を行った冷凍惑星の出身 実験中に起きた兵器の暴走により両親を殺されている。 身に

覚えがあるか。」

シヒト「ある。

怪獣弁護士 出された。 あったが、 「彼の来訪の目的は復讐である。 ここに居合わせたウルトラマンの説得により、 彼の当初の望みは地球人類の絶滅に 妥協点が見

そうすれば人命を奪うことなく復讐の完遂とし、 冷凍惑星で実際に事故を起こした兵器を差し出し、 るそうだ。 返答を問う。 地球を去ると約束す 彼に破壊させよ。

シヒト 「私の一存では決められない。一時間くれ。」

怪獣弁護士 「では 時間後に再度テレパシー でアクセスする。 我々はそちらの基

地に向 か っている。 到着し たら敷地内で待機する。 よろしいな。

>ヒト 「了承した。」

### 同昼外

10

周囲を戦闘車両、歩兵部隊、軍用飛行機が取り囲んでいる。ナカヨシ、エリカ、ウィンマム、冷凍星獣が佇んでいる。広大な敷地に本部ビルと周辺施設が建つ。

ナカヨシ ね。 (ウィ ンマムとたわむれながら) 怪獣弁護士はあなただったんだ

異文明 (ウィ の観測。 7 A 怪獣弁護活動は趣味だ。 をナカヨシ から奪っ て抱 あなたは正体晒しても っこする) 私  $\mathcal{O}$ 本来の任務は 11  $\mathcal{O}$ 

エ

IJ

力

· カヨシ も実名でやってるし。 「良心に照ら して恥じるようなことはしてない つもりだ。 ツ

ナ

か ?

格納庫から超兵器一号が輸送車に乗せられて出てくる。

エリカが怪獣弁護士に変身する。の前に移動し、輸送車から降ろされ、直立の姿勢になる。

怪獣弁護士 (テレパシーで) トシヒト長官。 返答はい かに。

超兵器、および周囲の軍事力が冷凍怪獣に向かって一斉攻撃

をする。

ったのウルトラコーティングを放つ余裕がなかったのだ。獣への攻撃の主要な部分をその身に受ける。とっさのことだ一瞬でウルトラマンに変身したナカヨシが盾となり、冷凍怪

倒れるウルトラマン。

怪獣弁護士に抱かれたウィンマムが泣きながらおろおろする。

構える冷凍怪獣。

## 同 司令室 昼 内

11.

 $\vdash$ 

シヒト

された。 「地球防衛軍としてはそちらの要求には応じかねるということが決定 我々の方針は 怪獣の抹殺による地球人類の安全確保である。

を危機に晒す。 超兵器の破壊は地球防衛計画に大きな遅れをもたらし、 それだけ地球

その危険性は受け入れかねるというのが我々の意思だ。」

冷凍怪獣、

超兵器に腕を振り下ろして攻撃

ウルトラマンが超兵器にコーティングを施し、

怪獣弁護士が即座にウルトラマンの視界と同期。ウルトラマ

ンが透視によって超兵器に人間 (まだ誰なのかは判らない)

が乗っているのを把握していることを知る。

超兵器が攻撃対象をウルトラマンに変更する。

超兵器からの攻撃に晒され、 耐えるウルトラマン。 光弾を手

で弾いたりなどしていたが流れ弾が航空機に当たりそうにな

弾くのをやめて受けて耐えるように変更する。

怪獣弁護士

「人間が乗っている限りウルトラマンが手を出させない。

ここは私が、 一肌脱いでやろう。 追加料金を請求せねばならない

な。

に見当をつけ、 怪獣弁護士、 ウルトラマ 乗っている小型円盤で飛んでいき、 ンの視界を頼りにコクピットの位置 取り付く。

てロックを解除しハッチを開ける。

コクピットハッチの開閉口。

ハイテク端末的なものをかざし

超兵器の内部へ進入する怪獣弁護士。

## 超兵器一号コクピット内部 昼

内

13.

怪獣弁護士が現れる。

パイロットであるミライがウルトラマンに対して攻撃してい

る様子を目撃する。

「(目が怖い。 ブツブツと独白) 許せない…! ウルトラマンみたい

ミライ

な格好して、 騙すなんて! 信じてたのに…!」

「楽しそうなところ悪いのだけれど、 降りてもらいます。

怪獣弁護士

い ?

怪獣弁護士、 ミライを電磁ネット銃でとらえ、 外に連れ出す。

円盤で降りる。

忘れ物はな

#### 14.

### (もどって) 地球防衛軍日本本部基地 昼 外

超兵器の攻撃が止む

地面に降りる怪獣弁護士とミライ。

ミライを解放する。

怪獣弁護士

「ここは危険。 行きなさい。

ミライ、 銃を抜き怪獣弁護士に突きつける。 舌打ちして、

部ビルディングに駆けていく。

ウル トラマンが超兵器への 1 テ イングを解く。

冷凍怪獣が超兵器に攻撃。 命中し、 倒れる超兵器の

#### 同 司令室 昼 外

15.

パ

オペレ

タ

「原因不明です

が

1 口

が

コ

F

から消失しました。

機体の

ドに切り替え。

外にいます。

「地上部隊に救出させろ。 超兵器は無人モ

トシヒト

オペレーター 「無人モードは先だっての暴走事故もあり、 運用条件が厳しくなりま

長官に直接ロックを解除していただかないと。

「すでに解除済みだ。

同 昼

外

16.

冷凍星獣が連続で超兵器を踏みつけている。

戦車や攻撃機が冷凍星獣やウルトラマンを攻撃している。

冷凍星獣はコーティングに守られている。

砲撃で牽制しながら起き上がる超兵器。

起き上がってからも四方に各種火力を乱射

退避する陸上・空中部隊。

砲撃のひとつが誤って基地本部ビルディングに向かってしま

ビル デ 内部、 司令室内。 警報が鳴る。

ビルディングは無事。

ウルトラマンがとっさにコーテ ィングを掛けてくれていたの

だ。

冷凍星獣が渾身の を込めて冷凍光線を超兵器に発射。

つく超兵器

そこに腕の振り下ろ で追撃。

粉々になる超兵器

ラマン。

終わ

0

た…と達成感を漂わせる冷凍星獣と、

並び立つウルト

冷凍星獣に掛けてい トラ コ テ イングが解除される。

基地に走っている途中だったミラ

イが振り返る。

ウルトラマンと目が合う。

「人類の文明を守らないなん て…! ウルトラマンじゃない お前

なんかウルトラマンじゃない

ウルトラマン、ミライに面と向かい、 静かに姿勢を正す。

験に落第した者。 ウルトラマンになれなかった落第生だ。 ラマンの声

「そうだ。

私はM78星雲、

光の国から来たが、

宇宙警備隊入隊試

だから、

こう名乗ろう。

『アラズ』。

ウルトラマン・アラズと。

ミラ 悔しそうな様子。

トラマンアラズの悲しそうな立ち姿。

怪獣弁護士がウィンマムの頭を撫でてい ウ 1 7 、ムも喜

んでいる様子。

事件は一件落着という雰囲気

ゴ ゴゴと音が 格納庫から新たな超兵器が

せり上がってくる。

いしいたける「ウルトラマンアラズ」

# 同司令室

昼

内

17.

・シヒト

「あの者達は超兵器一号の実験中の事故という機密情報を知っている。

作戦目標、機密情報漏洩の防止。

この機密が外部に漏れたら国民や政治家が超兵器計画の中止を要求す

るかもしれない。

地球の平和にとってマイナスである。

超兵器二号起動。怪獣・ウルトラマン・円盤の異星人を抹殺せよ。

通常部隊は距離をおいて待機。流れ弾に注意せよ。

同昼外

18.

て怪獣を直撃、吹き飛ばす(死んではいない)。となっており、超兵器二号の攻撃がコーティングを蹴散らしくなっており、超兵器二号の攻撃がコーティングも強度が薄の威力に吹き飛ぶ。怪獣に施されたコーティングも強度が薄

倒れたウルトラマンが顔を上げて透視光線で超兵器をスキャ

ン。中央に生体反応。

怪獣弁護士がテレパシーでパイロットにアクセス。

怪獣弁護士 「アラズ。まずいぞ。 この兵器には操縦者が乗っているわけではない。

洗脳された人間が生体コンピュー タとして機体に搭載されている。 連

れ出すことは不可能だ。」

ウルトラマン 「テレパシーで洗脳を解くことは出来ないか。」

怪獣弁護士
「困難だがやってみよう。

超兵器二号による容赦無い攻撃。ウルトラマンは手で弾いた

りガードしたりして凌ぐが倒されるのも時間の問題

怪獣弁護士がテレパシーで洗脳を解こうと苦闘する様子。う

まくいかない。

ウィンマムが怪獣弁護士にリライブ光線を照射する。

怪獣弁護士 「あなた… ワ を分け てくれるの 後で円盤も充電させて。

超兵器二号の攻撃が止む。

怪獣弁護士がテレパシー

 $\mathcal{O}$ 

出力を上げる

2 8 (テレパシー で怪獣弁護士と回線がつながっ いる) 俺は洗脳さ

れて機械のパーツにされていたそうだな。」

怪獣弁護士 「地球防衛軍所属、 パイロ ット、 タイパ 一隊員。 気の 毒だがその 7

ーンから降りるというわけにもいかないようだ。

「平和のためなら命も差し出そうという誓いを立てた身だが流石にこ

れは引くな。 気に食わないが、 この体で生きていくためには軍のメン

テを受けねばならないだろう。軍に従うしかない。

怪獣弁護士 「提案がある。 私の星に来ない か。 アニメ は地球のほうが面白いが科

学技術は地球より進んでいる。 君の体の メンテもできるだろうし、

間に戻すことすら可能かもしれない。」

「気持ちの整理は必要だが、 ありがたい申し出だと感じられる。

させてもらうよ。アニメは録画予約しておこう。\_

超兵器二号の目が赤く光り、甲高い警告音が鳴る。

タイパーの視界。カウントダウンの数字が表示される。

「なんだこのカウントダウンは!」

イパ

怪獣弁護士 「自爆のカウントダウンだろうけど、 地上波で放送中のラピ ユ タの

ルスのシーンがもうすぐなのかもしれない。」

昼

オペレータ トシヒト

> 「全窓、 防護ハッチを閉じろ。

トシヒト

「一号兵器、 自爆まであと20秒、 1 9 ::

「全員、 衝撃に備え!」

外

同 昼

20

「ウル トラマン、宇宙人の ひと、 逃げろ。 俺の PCを探し出

ドディスクを念入りに壊しておいてくれ。

が考えつかず固まる。

意を決し、

怪獣弁護士の円盤と倒れている冷凍星獣とにコ

ウルトラマン、逃げずに何かしようとするが、

有効な手立て

してハ

ティングを施し、 自らは防衛軍本部ビルディングをかばう位

置に移動して大の字のポーズを取る。

怪獣弁護士、 達観したようにタイパー を静かに見守る。

冷凍星獣が起き上がり、 冷凍光線を超兵器二号に発射。

自爆寸前に凍結することに成功。 自爆を回避する。

ウルトラマンが怪獣に歩み寄り、 よくやったありがとうとい

う意味を込めてお辞儀する。 冷凍星獣もお辞儀する。

学の力で君を救おう。

「(超兵器二号に)きみを我が故郷に招待しよう。

そこで解凍し、

怪獣弁護士

トシヒトが基地から屋外に出てきている。

ミライ及び地上部隊と合流し、 地球防衛軍の軍人たちみんな

でウルトラマンたちを見上げる。

ウル トラマン、怪獣弁護士、 冷凍星獣、 ウ インマムも彼らを

見つ が返す。 地球防衛軍一味とウルトラマン一味とで明確な

対立の 構図を示す。

トラマン、冷凍超兵器二号を抱える。

垂直に飛びたって行く。

「絶対に許さない。ウルトラマンを汚すまがいもの…」

ミライ

トシヒト 「超兵器計画はまだ始まったばかりだ。 地球の平和を守るため、 これ

からもともに歩んでいこう、ミライ。」

「はい、長官。 いつかリベンジしてやりましょう。 正義が勝利するそ

の日まで。」

未来への覚悟を示す雰囲気でカメラが上空後方へ遠ざかって 地球防衛軍の一同が平和のために戦う決意を改めて固めて、

く。

(終わり)